

『「フードロス」から繋ぐ笑顔』

新潟県立村上中等教育学校 3年

馬場 蒼央 さん

「フードロス」あなたはそう聞くとどう思いますか。私は、よくあること、そう考えていた。私は買い物をする時、商品を奥から取るようにしている。できるだけ長持ちさせたいからだ。私の家では主に祖母が調理している。だが母も調理をするので冷蔵庫の中には材料が多々ある。一度に全ての材料を使うことができないものは、少しでも賞味期限が長くないと期限が切れてしまう。だから少しでも長くしようと商品を奥から取っていた。でも、期限を忘れてしまっていたものは、考える間もなくごみ箱に捨てている。それが普通。そう考えていた。

最近、学校で税に関する講演会を聞いた。そこで私は「ごみ処理」にも税金が使われていることを知った。私は廃棄された食品を処分するのにどのくらいの費用がかかるのか気になり、調べることにした。食品ロスの廃棄物は主に二つあった。一つ目は、「産業廃棄物」だ。これは、ごみを排出した事業者が処分費用を負担する責任があるというものだ。二つ目は、「事業系一般廃棄物」だ。これは、原則として、自治体が家のごみとして処理をしているものだ。ごみの処理費用は年々増加し、その額およそ2兆円。家庭内の食品処分費は年間八千億円税金で納められている。また、食べられる食品を廃棄するために年間一八一一億円ほどの税金を投入していることを知った。私はそのことを知って衝撃を受けた。そして、税金が上がるのは私達の生活が理由だといっても過言ではないと考えた。納めた税金を食品ロスの処分費用にしたり、救急車の不正利用など自分たちが直せば、そんな税金を使わなくても済むものに使っているのだ。だから、その様々なロスを減らすことで、もっと多様な税の使い道をする事ができるとも考えた。

税金は、私達の生活をよりよく、豊かにしている。例えば、新エネルギー対策、災害からの復興、ごみ処理や医療、教育、さらには、研究、宇宙開発や海外活動の支援などだ。税金は、私達にとって必要不可欠だ。私はこの現状を知ってから、家族に食品は前から取るようにと言っている。また、外出した時は、食べ残しの出ないような注文をしている。

この問題は一人では解決できない。一人一人がこの現状を知り、意識を持ち、少しでも税金の無駄を減らそうと考えるしかない。そして、税金を使いもっと笑顔になる人の多い世の中になっていけばいいと思う



『今の自分は税金のおかげ』

村上市立村上第一中学校 3年

増田 結 さん

私には高校三年生の兄がいる。私も中学三年生なので、兄妹そろって受験の年だ。だから自然と、私の家では将来や進路の話をするが増えている。

私は市外の電車で通う高校を選択肢に入れている。兄は大学に受かったら一人暮らしを考えていて、バイトも始めると言っている。このような話の中で出る言葉が「税金」「給料」「所得税」などだ。私たち学生がこうして文字を書けること、勉強できること、そして志望校を迷えること。生活のほぼ全てに税金は関わっている。兄もバイトを始めて、もし一定の額のお給料をもらえたら、所得税がかかるようになるという。それを聞くとより身近に感じた。

正直、これまでの私は税金はなくてはならないものだと知ってはいるながらも余計なお金を払っている気分だった。しかし、この間私の学校で税についての講演を聞いた。その中では理解しきれないこともいくつかあったが、「もしも税金がなかったら」という話を聞いて私はとても驚いた。税金がなければ、百万を超える額の教育費を払わなければ学校に行けないのだ。勉強するために必要な教科書や机、いすも、改適に学習するための校舎の建設や修理も、税金でまかなわれていることを知った。そしてその税金は、たくさんの人が納めたものだ。この宝のような税金がなかったらきっと今、受験勉強などできていないだろう。

私は親を含め納税をしているたくさんの方々に感謝しなければいけないと第一に感じた。私たちが消費税はたまに払っているとはいえ、自分で稼いだお金でもない。しかし、ただ「ありがとう」と言っても、気持ちは伝わるかもしれないがどうにもならない。私たちにできる行動は何だろう。私はその一つは、勉強に励むことだと考える。時間をかけて作った薬が何の効果もなかったら悲しいように、働いて納めた税金が誰の役にも立っていなかったら悔しいと思う。だから私は、「あなたの納税のおかげでこんなに知識が増えたよ。」と示せるよう、勉強に励みたい。そして、良い環境で学べること、志望校を選択できることは幸せなんだという気持ちを忘れずに生活していく。

日本で集められた税は教育費の他に、医療や消防、警察、災害からの復興など、国民のために使われている。この日本の優しさを途切れさせないためにも、未来の子どもが伸び伸び勉強できるためにも、私は将来気持ち良く税金を払いたいと思った。立派な納税者になるために。



村上税務署長賞

『税のことを理解できる社会にするためには』

村上市立村上東中学校 3年

野村 皐月 さん

税金は日々、色々な所で使われています。例えば、けがや病気で病院で手当てをしてもらう時のかかる金額の一部に税金が使われていたり、老後の働けなくなった後、暮らしていくためにもらえる年金の一部にも税金が使われています。このように税金は国民が暮らしやすい社会にするために使われています。しかし、なぜ税金を払っているのか、税金が何に使われているのか分かっていない人が多くいると思います。だからもっと国民に税のことについて知ってほしいと思い、どうすれば知ってもらえるのか、二つのことを考えました。

一つ目は、幼い頃から税金について知っておくことです。税金は年齢関係なく、小さい子供から大人まで同じ商品を買ったら、同じ値段の税金を払っています。だから、幼い子供も税金を払う国民として税金のことを理解してほしいと思いました。私は小学校高学年の時に税金について学びました。その時は税金についてのアニメーションを見ました。このアニメーションのおかげで、税金が無くなったら救急車を呼ぶことに大金がかかってしまったり、私達が普段歩いたり、車で通っている道を整備することが出来なくなってしまうことが初めて分かり、税金を払う理由、税金の使い道を知ることができました。だから、幼い頃から自分達が税金を払うことによって国民の人々が暮らしやすい社会になっていることを理解できた方が良くと思いました。二つ目は大人に税金を払う理由を具体的に伝えることです。大人はある程度は税金を払っている意味は知っていると思います。

しかし、増税などとなると自分達の負担が増えるわけですから、不満を持つ人も多くいると思います。だから、改めてメディアや新聞などで、税金の使い道や増税をしなければならない理由を具体的に伝え、自分達が税金を払うことで暮らしやすい社会を造り上げていることが改めて分かれば、自分が社会貢献していることが分かり、税金に不満を持つことが減るのではないかと思います。

このように、幼い頃から税のことについて知り、大人になってからも改めて税について知ることができれば、誰もが税金に不満を持つことが無くなり、暮らしやすく、税金によって作られた物を大切にし、明るく、笑顔が増える日本になり、税金を払うことの大切さが理解できるようになるのではないかと思います。



『税の大切さ』

村上市立荒川中学校 3年

渡邊 美月 さん

私たちの身の回りにはたくさんの税があり、その一つ一つがとても大切なものと分かりました。

日本には約50種類の税金があり、この税金が無くなってしまうと、安全で幸せな生活ができなくなってしまいますと分かりました。

例えば、私たちが毎日利用する道路。これも税金によって整備されています。もし、道路を整備する際に利用する税が無くなってしまったら、道路は穴だらけになり、危険で自動車も歩行者も通れなくなってしまい、通勤通学ができなくなってしまいます。

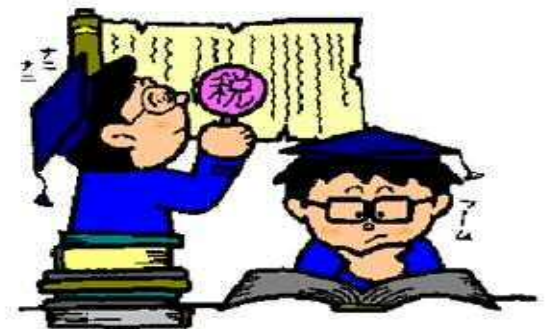
他にも教育面ではたくさんの税金が使われています。教科書、机、校舎の建設や修理など、年間約5兆円もの税が私たちの教育に使われています。なので私は、学校や公共施設の物は大切に使いたいと改めて思いました。

私たち中学生でも払える身近なものといったら消費税だと思います。しかし、この消費税も無くなってはならないものと学びました。私は税について学ぶまで、「消費税をなくしてほしい！」と思っていました。しかし消費税も他のものに形を変え、私たちの生活に関わっていると知ることができました。

それは社会保障です。この社会保障は子どもから子育て世代、お年寄りまで、全ての人々の生活を支えてくれます。ケガをして入院してしまったときの給付金や、ハンディキャップを負っている方々の支援金としても利用されています。私たちが払った消費税も、形を変え、誰かを救う手助けになっていると知れて、とても嬉しい気持ちになりました。

租税教室をきっかけに私は税の大切さについて改めて知ることができました。一人一人から集めた税が私たちの教育費や道路整備費誰かを救うお金として使われています。自分のお小遣いから出ていった数十円の税金もみんなのお金とあわさり、誰かの役に立っているといいなと思いました。今学校に通うまでに通っている通学路、学校の備品も自分のお金から出されたものかもしれないと思うようになりました。税を納めることは確かにお金が減ることだけど、それ以上に、国のため、みんなのため、私のためになっているんだと考えながら生活していきたいです。「税が無くなればいいのに。」

このような言葉を耳にしたときは、「そんなことない！」と声を大にして税の大切さを広め、みんなで役に立ちたいと思います。租税教室という良い機会に恵まれて良かったです。



『身の周りにおける税金』

村上市立荒川中学校 3年

黒沢 音綺 さん

「税金」と聞いて私は今までぼんやりとしか分かりませんでした。大人になったら必ず支払わなければいけないもの、物を買ったときに必ず支払う消費税、そんな事しか知識がありませんでした。今回、税金について学んでなぜ税金を支払わなければならないのか、どんな所に税金が使われているのか詳しく知ることができました。

まず一つ目に知ったのは、支払った税金が学校の設立、教科書に使われている事です。当たり前のように通っていた学校も当たり前のように使っていた教科書も、全て税金でまかなわれていたことに驚きました。私たちが今学校でしっかり学べるのは、たくさんの人の支えがあるからだと気づくことができて、今まで以上に感謝して学校生活を送りたいと思いました。

二つ目は冬の除雪作業、医療や介護、ゴミの処理に使われていることです。私たちが住んでいる新潟県は雪が多く降る地域で、除雪作業は必要不可欠です。その除雪で使われる税金の金額を知ってとても驚きましたが、そのおかげで冬の道路を歩いたり、車が走ったりできているのでとてもありがたく感じました。



少子高齢化の「今」子どもが減り、お年寄りが増えることでこれからもっと税金が増えると予想されていることが分かり、少し不安になりましたが、老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには税金を支払うことがいかに大切なものだという事が分かりました。

昨年自分の住む地域が大雨で河川が氾濫し大変な災害になりました。そのときの復旧作業にも税金が使われていたそうです。災害時の緊急情報、防災無線、警察・消防・自衛隊の活動、自治体からの要請による土木業者による作業です。これからの活動によって、素早く復旧して普段の生活に戻ることができました。

「税金は高くて支払いたくない」という声も耳にしますが、支払うことによって私たちの生活が豊かで暮らしやすくなっているんだと私は思いました。学校教育、除雪、医療や介護、ゴミ処理、災害時の復旧作業、その他私たちの気づかない所で私たち国民がより良く暮らせるように税金が使われている事を知って納税は必要不可欠だと知ることができました。私も大人になったら働いて、自分のために、誰かのために税金を支払いたいと思いました。

『税から感じた「不思議」と「気づき」』

村上市立村上第一中学校 3年

小田部 花 さん

「消費税十パーセント!？」

消費税が十パーセントに引き上がった令和元年、私は驚きを隠せませんでした。そのころの私は、税の使い道を知らなかったので、ただでさえ高かった消費税が高くなることが不思議でありませんでした。

それから四年後、税の作文を書くことになった私は税について調べるときに、真っ先に消費税について調べました。すると、参考にした本に『消費税の収入は二十三兆四千億円』と書かれていたのです。こんなに大きいお金がどこに使われるのか。もう少し調べてみると、日頃自分が生きている中のたくさんの場面で税に助けられていることが分かったのです。

例えば、自分がけがをした時。けがや病気になると病院へ行きますが、医療保険という制度によって、実際にかかる金額より安い金額を払っています。ですが、保険の費用だけでは医療費を十分にまかなえません。そこで使われるのが税金です。医療費の不足分を国の税金でまかなっているのです。私も前に交通事故に遭ったことがあります。その医療費も税金でまかなわれていなければ、とても高い金額だったかもしれません。

また、教育の面でも多くの税金が使用されています。中学生の生徒一人あたりの年間教育費は約百十二万二千元です。これら全てが税金でまかなわれているのです。今こうやって学習できているのは、税金が使用されているからともいえます。

調べていくにつれて、その他にも身の回りでたくさんの税金が使われていることが分かりました。しかし同時に、日本が抱えている問題についても分かっていきました。それが『少子高齢化』です。高齢者が増加すれば社会保障の費用が増加し、その費用を負担する働き手が減ってきています。この問題をどう補っていくのか…そこで使われるのが消費税率の引き上げです。少子高齢化が進んでも、世代を問わず一人ひとりが安心して暮らせるように、消費税率の引き上げが行われたのです。つまり、私が不思議に思った消費税率の引き上げは、未来の私たちの社会保障の安定のためだったのです。

税について調べているうちに、昔感じた税の不思議も明らかになり、また身の回りのたくさんの場面で税金が使われていることに気づけました。医療の面や教育面、その他にも私たちの欠かせない部分で税が使われています。このことに気づけたおかげで、私は税金についての見方が変わりました。今の生活と未来を支える税にはたくさんの可能性が含まれています。たくさんの場面で支えられる税に感謝し、これからの未来をつくるために、私は生きていこうと思います。



『身近な税金』

村上市立荒川中学校 3年

石井 らら さん

私は、初めは税金は何に使われているかもよく分からず、なくなってほしいと思っていました。でも、今回の話を聞いて、自分たちが払っている税金は住んでいるところの整備や、災害復興、教育、医療などすごく身近で自分たちの生活にとって必要不可欠なものに変わっていると学びました。税がないと、物や食べ物を安く買えたり、給料も所得税が引かれない分多くもらえるのではないかと考えましたが、警察や消防を呼ぶのにもお金がかかることで、呼ぶことができない人が増え、事件が多くなったり、教育費が全額負担で一部の人しか学校にかよえなくなったりと、所得が多い人と少ない人で、大きな差が生まれることが分かり、税金を払わないことで、今の生活では考えられないような問題がたくさんでてくるのだと分かりました。

去年、新潟で8月に大雨による災害がおこったとき、私が住んでいる地域は、大きな被害を受けました。土砂くずれや家の浸水、道路の陥没などおきているところもありました。そんな中で、今こんなに復興して、もとの生活にもどれてきているのも税金のおかげで、ほんとうに税金は自分たちの生活のために大切なものだと分かりました。

また、私が租税教室で聞いて心に残ったことは、税金の集め方です。今回は、橋の建設費を例にして公平な負担を考えました。ですが、それぞれ所得も違うし、使用回数も違うことで、それぞれ同じ費用を負担させても、使わない人からは不満がでてくるなどで、それぞれに「公平」な負担をするような集め方というのを考えるのがとても難しかったです。そこで、税の性格に応じた適切な課税方法を採用して所得課税・消費課税・資産課税等をバランスよく組み合わせるといふ工夫が行われていると分かりました。改めて、全員が不満をもたずに、公平な負担をすることは難しいと学びました。

今回、税について学んで私は、税金は身近で生活になくてはならないものによって変わっていて、税を払うことはすごく大切なことなのだと分かりました。また、今、不自由なく過ごせていたり、教育を受けられているのも税金のおかげで、一番私にとって身近な教育では校舎や施設、教科書もすべて税金でまかなわれていると分かったので、改めて普段使っているものを大事に使おうと思いました。

税は自分たちの生活に欠かせないものだということを忘れずに過ごしていきたいです。



『義務と権利～身近な税に救われて～』

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 2年

佐藤 愛結奈 さん

「えっ何？いまどういう状況!？」

夏休み、友人とオープンキャンパスに参加した私は、帰りの電車の中で突然、周りの音が小さくなり、目の前が暗くなって、徐々に意識が遠のいていく感覚に恐怖を感じた次の瞬間、駅のホームに寝かされていた。隣には、友人の他に、電車に乗っていた方や駅員さんがいて、立ち上がろうとする私に対し、「倒れて頭を打ったんだから寝てなさい。もうすぐ救急車が来るからね。」と、声をかけてくれてようやく、自分がどういう状況なのかを理解した。

かけつけてくれた救急隊の判断により、近くの脳外科病院に運ばれた私は、様々な検査を受け、神経調節性失神と診断されたが、頭部に異常はないという事で、帰宅を許された。

まさか自分の身にこんな事が起こるとは、思ってもいなかったけれど、友人だけではなく、見知らぬ人達の優しさにも触れて、本当に、申し訳ない気持ちと感謝の気持ちが込み上げてきた。顔も名前も分からないけれど、助けてくれて有りがとうございました。心から感謝しています。と伝えたい…。

心配をかけたのは、家族にも同様で、突然娘の携帯で娘の友人から、私が倒れて救急車で運ばれたので病院に向かって欲しいと言われた母は、酷く動揺したらしい。自宅から一時間近く離れた病院までの道中、不安で仕方なかったが、意識のある私の姿を見て、深く安心した様子だった。

その日が日曜日であった為、私は家族と共に帰宅し、改めて翌日に母が会計を済ませる為に病院へ向かった。

戻るや否や、母から改めて日本の医療制度は有り難いよね…助けてくれた人にも、制度にも感謝しないといけないよ。と言われた。

日本では、保険証さえあれば、いつでも誰でも、必要な医療サービスを少ない費用負担で受けることができる。

それは、授業などで習った記憶があるが、医療費のことや、救急車などの公共サービスの費用について深く考えたことは無かった。

救急車にしても、行政サービスの一つであり、一回の出動するのに必要な費用がおおよそ四万五千円かかるとされていることも知らなかった。

今回は、たまたま私の身に起こって気付かされたが、考えてみれば身の回りに当たり前のよう存在している公共サービスの中には、すべての国民に必要な不可欠なものが多く含まれている。他人事ではないのである。

私たちが安心して公共サービスや公共施設を利用するための対価である税金を正しく納めることは、利用する側の義務であり、納めた税が正しく使われているのか、その使い道を知る事もまた、重要なことなのだと思う。

私はあと二年で成人になる。改めて税について関心を持ち、考え、納税の義務を果たしていきたい。



『税金とは何だろう。』

村上市立岩船中学校 3年

工藤 爽 さん

皆さんは、税金について考えたことはありますか。税金とは、私たちが安心・安全に暮らせるようにするために、国や地方公共団体が公共サービスなど個人でできない色々な仕事をしています。その時費用がでますが、それを国民みんなで資金を出し合います。その資金を「税金」といいます。

では、税金は、どんなものに掛けられているのでしょうか。私達の生活に一番身近な税とは何か知っていますか。それは、消費税です。消費税とは、商品を買ったり、サービスを受ける時に消費者が負担する税のことです。一九五九年にフランスで導入され、日本では一九八九年に導入されました。導入当初は、3%でしたが今では、10%になっています。消費税の他にも、働いてお金をもらっている人達にかかる所得税や海外からの輸入品にかかる関税など日本には、およそ五十種類もの税があるそうです。

そこで、それらの税金は国でどんなことに使われているのか、気になり、調べてみることにしました。使い道として最も多いのは、年金、医療、介護などの社会保障費など私達の生活に欠かせないものに使われていると分かりました。次に多いのが国の借金を返済するための国債費に使われています。他にも私達の教科書が無料で配布されているのも税金が使われており、色々なことで私達の生活を豊かにしていると分かりました。

次は、世界に目を向けてみました。世界では、どんな税金があり、どんな使われ方をしているのか調べました。日本と世界の消費税率を比較すると日本が10%に対し、ヨーロッパ諸国では、19%、25%など高いですが生活必需品の税金を低く定めていることが分かりました。またアメリカには、消費税がなく、そのかわり州、郡、市ごとに小売売上税というものを定めているそうです。次にフィンランドと日本の税金の使われ方を比較してみると、フィンランドも日本と同じく社会保障に一番多く使っていることが分かりました。日本と何が違うかと言うと、日本は社会保障に40%使っていますが、フィンランドは50%も使っているにもかかわらず、国債費に1%も税を使ってない、といことなどがフィンランドが幸福度世界一位としているのかと思いました。他にも世界の税を調べてみると、ハンガリーでは、肥満防止としてポテトチップス税があったり、アメリカでソーダ税など昔の日本でも犬税があったりとユニークな税があると分かりました。

今まで私は、税のことを考えたことはありませんでしたが、今回この作文を書くにあたって調べていくうちに税について関心をもつことができました。これから大人になっていくうちに税金の種類が増えたとし、それは私たちの暮らしを豊かにするために使われていくのか、逆に苦しくなるのか、税金は私達の生活に深く関わっていると分かりました。



『税金について』

村上市立神林中学校 3年

岸 和花 さん

お菓子を買うとき、銭湯に行くとき、私たちは必ず税金を支払っています。税金についてよく知らなかった頃は、なぜ税金を支払わなければいけないのか分からなく、沢山お金を払うことで損をしている感覚にもなりました。しかし、税金についての講話を聞いてからは、決して損ばかりではないことを知りました。

まず私は、税金の種類が思ったよりも多いことを知りました。消費税を初め、私たち中学生には縁のないような事業税など、人々の生活を支えるため、様々な人が協力しあって公共施設や豊かな環境を整えていることが分かりました。

私はまだ中学生ですが、自分の払ったお金で社会が少しでもよくなっていると思うと、自分も社会の一員だと言う自覚が湧いてきます。ですが、税金の使い道の決定権は、直接私たちにあるわけではありません。内閣が予算案を立て、最終的に国会の話し合いで決定されます。私は、税金をばらまいて一時的な支援にするのではなく、長く使っていける公共施設や学校設備の充実に充てたほうが良いと思います。税金を使って、子育て世帯に給付しても、子育て世帯も例外なくその税金を支払っているのです。一時的な支援のために税金が上がれば本末転倒だと考えます。そうはならないためにも、税金の使い道を熟考し、本当に求められた支援を行うことが大切です。

より良い未来を守るために、税金はとても有効な手段であり、誰もが支払うべきものです。私も、自立したら、損ばかりだと思わず納税できる社会人になりたいです。



『税に思うこと、知ったこと。』

村上市立朝日中学校 3年

田村 堇 さん

小学生のときは、税をなぜとるんだろうと思っていました。おかしなど買うとおかしの値段+税金なので多くお金をとられるのがいやでした。でも、今回みたビデオであらためて税が必要なことが知れました。もし税がなかったら生活に不自由がでることがいろいろありました。学校で使っている教材などにも税が使われていることが分かりました。学校のほかにも、道路の整備や災害からの復興活動などにもつかわれていて、もし税がなかったら道路が整備されなくなり、ずっと道路が悪いままで不自由だなと感じます。

税は学校などだけではなく、こまった人たちのためや、健康な生活ができるように使われています。健康診断や予防接種、高齢者に向けての豊かに暮らせるための施設などにもつかわれています。さまざまなところでたすけになっていてすごいなと思いました。

税は、消費税だけかと思ったら、たくさんの税がありました。税も分かれています、国税、地方税などがありました。その中で聞いたことある税がいくつかありました。所得税や自動車税は聞いたことあるけれど、たばこ税や、入湯税などは聞いたことがありませんでした。国だけで税をためているんじゃなく、県や各市町村にも納められていることが分かりました。

これからの税の納められる金額が徐々にへっていくといわれています。なぜかというところ少子化が原因で税が十分に納められなくなり高齢者をささえられなくなっていくと思います。2050年には1.3人分でしかささえられなくなると予想されています。そのためにも1人でも多く働いて税を納めないと、老後たいへんになると思いました。

消費税率が年々上がって行って好きな物がおこずかいの中で充分に買えなく時々税がなければいいのにと感じてしまうことがあります。けれど、税のおかげでなりたっていることがたくさんあることが分かりました。1人1人が健康で安全にらせるために税があって、ありがたく思います。

これから、私たち子供にできることは、税でつくられた教材をつかってたくさんべんきょうして、大人になったら仕事をして、税を納めたり、地域のボランティアかつどうに参加したり、みんなのためになるように行動したいです。税をたくさん納めて高齢者が不自由なく、らせるように手だすけしたいです。



『世界の税、日本の税』

村上市立山北中学校 3年

木村 奈々 さん

社会の授業で租税教室というのを行い、その中で日本の税のしくみについて学びました。日本には五十種類くらいの税があり、納め方も様々あるので、負担する人を限らず、なるべく公平にしていると知りました。

では、他国の税のしくみはどうなっているのでしょうか。調べてみると、日本やアメリカに比べて、ヨーロッパの国々では、国民負担率（個人や企業の所得に占める、社会保険料の負担の割合を示す）が高いということが分かりました。つまり、国民の負担が大きいのです。ですが、そのぶんヨーロッパでは社会保障に税金の多くをまわしているため、社会保障が充実しています。例えば、社会福祉や保険サービスは無料もしくは、安い料金であったり、教育費が小学校から大学まで無料だったりするそうです。日本にも社会保障はもちろんありますが、社会保障の水準を比較した記事を見ると、日本の水準はヨーロッパよりもかなり低いことが分かりました。

なぜヨーロッパでは国民負担率が高いのでしょうか。私は消費税が高い事が原因の一つではないかと考えました。ヨーロッパ諸国が多く加盟している EU では、最低15%の消費税を導入することが定められているらしいのです。高い所では、27%の国もあります。また、先程紹介した、充実した社会保障のためでもあると思います。そのため、ヨーロッパは「高負担・高福祉型」と言われています。

反対に「低負担・低福祉型」なのがアメリカです。アメリカは、消費税が無いかわりに社会保障制度があまり充実していません。アメリカは国土が広く、人口も多いため、社会保障制度を充実させようとすると、きつものすごい負担がかかることでしょう。

この二つの国をふまえて考えると、日本はこの二国の中間ぐらいの制度なのではないかと思いました。アメリカほど社会保障制が充実していないわけでもないし、ヨーロッパほど国民負担率が高いわけでもないからです。

日本とヨーロッパとアメリカ、どの仕組みが一番いいのかは、それぞれの国の事情などによって変わってくると思うので一概には言えません。これから先、日本もどんどん変わっていくことでしょう。その都度、一番良い税の仕組みを他国を参考にしながら考えていけたらいいのかなと思います。

今回参加した租税教室は、今まで消費税くらいしか税について理解していなかった私に、もっと日本の税について知る機会と、他国の税の仕組みを調べるきっかけを与えてくれました。今はまだ、消費税以外の税に関わる場面があまりないのですが、大人になったらきっと、たくさん関わらなければならないので、その時まで、習ったことはしっかり覚えておこうと思います。また、分からないことがあったら、自分で調べて、より理解を深めていきたいです。

なぜなら、私も社会の一員なのですから。



『税金と私たちの生活』

村上市立村上東中学校 3年

志田 衣吹 さん

私が小学校の頃、百円ショップで母にお使いを頼まれたことがある。商品の一つだったが百円と十円を渡された。「百円ショップって全部百円じゃないの？」と疑問に思った。私は十円の意味がわからなかった。母に聞いてみたらこの十円は消費税ということがわかった。消費税というものがあることを知ってからスーパーに行くと値段表示を見ると全部にそれがあった。このとき私は消費税の存在を知り、「消費税がなかったらもっと安いのに。」と思った。消費税がある大切さがわかったのは、小学校六年生になったときの租税教室だ。税について学ぶ授業で、その時に見た動画が印象に残っている。「税がなくなった社会」というもので、大金がかかるため火事になっても消防車を呼べず、学校にも行けず、ごみがあふれて町が汚くなっていた。私たちの暮らしに関わる当たり前で大切なことのほとんどは、税金が使われているということがわかって驚いた。税金を全ての人が払うことでこの社会は作られていることがわかった。

二〇一九年、一部の消費税が十パーセントになった。振り返ってみると、平成元年に三パーセントで消費税が導入されてから、五パーセント、八パーセント、十パーセントと徐々に上がってきている。原因は、高齢化の進展に合わせて安定的な財源を確保するためだ。今後も消費税は上がり続けていくと思う。私は、税金の使う量を減らせば消費税も上がらずに済むのではないかと思った。私たちが最も簡単にできることは、ごみの排出量を減らすことだ。ごみ処理だけでも年間で税金が二兆円は使われている。ごみの排出量を減らすことで、税金を使う量を減らすだけでなく、地球温暖化の対策もすることができる。フードロスを減らしたり、エコバックを使うなど誰でも簡単にできる。一人一人のちょっとした努力で少しずつ変えることができると思う。



このように、私たちの暮らしと税金は深く関わっている。もし、税金がなくなれば社会は崩れていく。そうならないように一人一人が税金を納めることで社会は成り立っている。私は今まで「消費税はもっと安くなってほしい」と思っていたが、この作文を通して、税金がある大切さを知った。今後、税金が上がっても、社会のために役立っているということを忘れずに日々を過ごしていきたい。